

福岡県幼児教育の推進体制構築事業

幼児教育の充実のために

幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼児期の特性を踏まえた充実した教育が行われることが求められます。

福岡県では、義務教育課、私学振興課、子育て支援課が協働体制をつくり、幼稚園・保育所（園）・認定こども園における幼児教育の更なる質の向上を図ることを目的に、平成28年度から3年間、「**福岡県幼児教育の推進体制構築事業**」を推進してまいりました。

本リーフレットでは、主に園内研修の支援を行う「**幼児教育アドバイザー巡回訪問事業**」を中心に、その成果と課題について御報告します。

福岡県・福岡県教育委員会

成果分析編 分析の詳細を、福岡県庁ホームページ「義務教育課各種資料のページ」(<http://gimu.fku.ed.jp>)に掲載しています。あわせてご覧ください。

巡回訪問の報告書、事前・事後アンケートをもとに事業の成果と課題を分析しています。

- 平成28年度～平成30年度の巡回訪問事業実施数
- 平成30年度訪問事業事前アンケート まとめ①
- 平成30年度訪問事業事後アンケート まとめ②

福岡県幼児教育推進協議会委員長 西南学院大学大学院 教授 門田 理世

【西南学院大学大学院 門田研究室】 諫山 裕美子・中ノ子 寿子・沖本 倫



実践事例編

継続訪問園（年間4回以上継続して巡回訪問）における実践事例を紹介します。

- 「求めと課題に応じた園内研究への関わり」 福津市立神興幼稚園
福岡県幼児教育アドバイザー 大嶋 正紹、吉迫 務
- 「保育所（園）内研修の体制づくり」
社会福祉法人井筒会 小郡中央保育園、社会福祉法人ルーテルこひつじ会 松崎保育園
福岡県幼児教育アドバイザー 成富 由弥
- 「自園の保育を振り返ろう～ECEQ（イーセック）の手法を用いた園内研修～」
福岡県幼児教育アドバイザー 早川 成
- 「つなげよう 小学校へ～幼小連携・接続の体制づくりその一歩」
那珂川市立岩戸幼稚園・岩戸小学校
福岡県幼児教育アドバイザー 倉吉 志米男
- 「どう進める！？保幼小接続推進体制づくり」
福津市 小郡市



幼児教育アドバイザー巡回訪問事業

幼稚園・保育所・認定こども園からの希望に応じて、県が委嘱した幼児教育アドバイザーが申請施設を訪問しました。そして、各園が幼児教育・保育について相談したい内容に対して、アドバイザー個々の専門性を生かしてアドバイスを行っていきました。

幼児教育アドバイザーの紹介を希望される場合のお問合せ先

公立幼稚園・小学校は、福岡県教育庁教育振興部
義務教育課 (TEL 092-643-3910)

私立幼稚園は、福岡県人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局
私学振興課 (TEL 092-643-3130)

保育所・認定こども園は、福岡県福祉労働部
子育て支援課 (TEL 092-643-3258)

平成30年度巡回訪問事業分析結果

※平成31年2月1日現在

平成30年度「幼児教育アドバイザー巡回訪問事業」の成果を調査するため、アドバイザーの訪問を受けた幼稚園・保育所（園）・認定こども園や小学校でアンケートを取りました。ここでは事業に関する分析結果をご報告します。

西南学院大学大学院 門田研究室
門田理世・諫山裕美子・中ノ子寿子・沖本倫

訪問事業数

平成30年度 訪問事業 実施施設		事業数 (延べ数)
内 訳	公立・私立幼稚園	45
	公立・私立保育所	42
	公立・私立認定こども園	17
	小学校	3
	複数の園・学校	10
	市、団体（研修会）	6
総事業数		123

3年間の同年内におけるリピート園と事業参加の園数

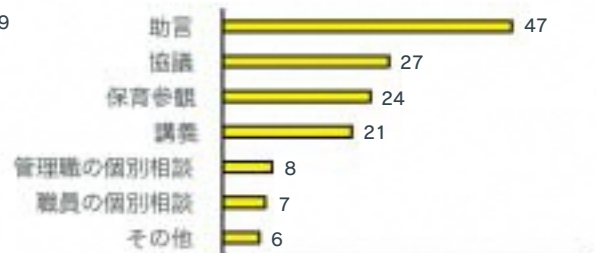
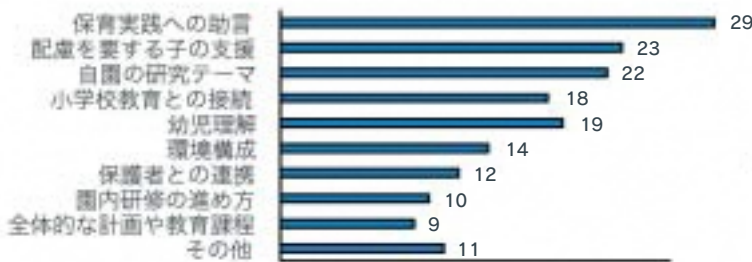
	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	利用回数	施設数	利用回数	施設数	利用回数	施設数
同年内に リピートした 施設の内訳 ※研修会は除く	3回 単独	1 24	3回 2回 単独	1 8 44	8回 6回 5回 4回 3回 2回 単独	1 2 3 3 3 9 43
参加施設数	25		53		64	
巡回訪問数	27		67		123	

事業開始以来、事業回数・参加園・事業のリピート率は継続して増加

平成30年度訪問事業事前アンケート

回答数74の分析

訪問事業に希望する内容と方法

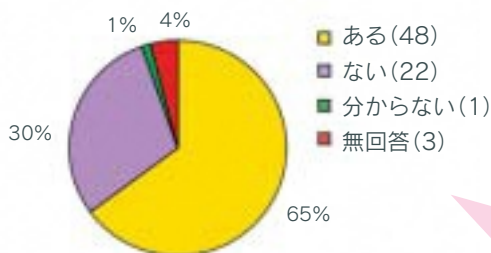


最も多い事業内容への希望は「保育実践への助言」

自園の保育を外から見てもらいたいという要望が多い

最も多い事業方法への希望は「助言」を受けること

これまでの外部講師の利用率



【幼児教育アドバイザー以外に外部講師を園内研修に招いた経験】

園、保育の質を上げたい！

助言してほしい！
見てほしい！！

約3割の回答者が訪問事業によって初めて外部講師の園内研修を受けた

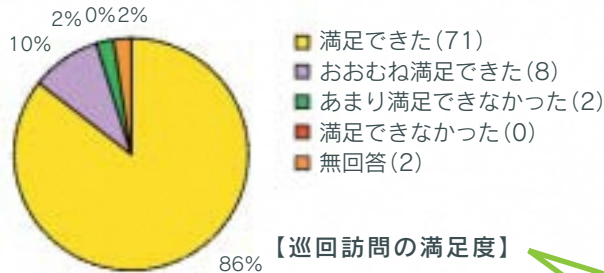
幼児教育アドバイザーが園内研修のきっかけに

まとめ ①

平成28年度の事業開始以降、幼児教育アドバイザーの訪問を求める園は年々増加している。特に平成30年度内でのリピート園が急激に増加している状況から、事業を受け入れた施設はその良さを実感していることがわかる。参加園が自園の保育に外部者からの助言を求める姿勢は、自園の課題を自覚しているだけでなく、保育の質の向上を目指している切実さを表しており、各園の園内研修に対する理解や期待は様々ではあるが、アドバイザーには自園の保育課題を解決する一助となることが期待されている。

平成30年度訪問事業事後アンケート

巡回訪問事業の満足度



回答数83の分析

巡回訪問に「満足できた」「おおむね満足できた」の回答が約97%

満足した理由

～研修や助言の内容から～

- 実行に移しやすい助言だった
- わかりやすい内容だった
- アドバイザーの方の経験を基にした話を聞いてよかった
- 専門的な話を聞くことができた
- 園の研究や大会発表への助言をもらった
- 園の課題等に対して解決策を助言してもらえた
- 助言の内容が適切だった、満足のものだった
- 希望通りの内容だった

～保育・教育の変化・深まりから～

- 改めて保育・教育について考える機会につながった
- 助言を受けたことで保育の方法や子どもの見方が変化した
- 自分(自園)にはない新しい視点からの助言をもらった
- 園やクラスの課題に気づくことができた
- 助言を受けて保幼小の交流活動が充実した、関係が深まった

～研修の方法・アドバイザーの姿勢から～

- 一方的な教示ではない研修の持ち方ができた
- 実際に保育を見てもらった上で助言を受けることができた
- 保幼小が合同で研修を受けたことで相互理解や連携の深まりにつながった
- 園(小学校)の実践や職員それぞれの意見をアドバイザーが認めた上で研修をしてくれた

～参加者の様子から～

- 研修の参加者(職員、保護者等)が満足した様子だった
- 悩んでいた担任が助言を受けて安心した様子だった

巡回訪問事業の今後の活用希望



無回答を除く全回答が今後も訪問事業を「活用したい」「どちらかといえば活用したい」と回答

今後も活用したい理由

アドバイザー	アドバイザーの話が分かりやすかった	78
	話が自園の課題に合っていた	45
	日頃の悩みを解決できた	43
	明日から活かしたいと思えた	42
	職員からの感想が好意的だった	35
行政	これまで十分にできなかった園内研修ができた	29
	無料だった	48
	申し込み手続きが簡単だった	13
その他	アドバイザーを紹介してくれた	2
	無回答	2

巡回訪問事業への希望

今後も訪問事業を利用したい

来年も同じアドバイザーに研修を依頼したい

感謝の気持ちでいっぱい!

内容によっては複数回訪問して欲しい

今後も訪問事業を続けて欲しい

もっと巡回相談の有意義さをアピールして欲しい

提出書類を減らして欲しい

訪問事業を通して質の高い教育環境にしたい

【訪問事業への要望】

アドバイザーの話がわかりやすいこと、無料であること、自園の課題にあった話がきけることなどが活用したい理由の上位にあがった

平均回答数3.94
=各施設が複数の良さを実感

今後も訪問事業を活用したいという声が多い

まとめ②

巡回訪問の満足度は非常に高く、参加した園全てが今後も活用したいと希望していることから、各園の課題に寄り添いながら指導助言にあたっていたアドバイザーの存在意義は大きい。また、次年度以降も継続して事業の活用を要望する回答が多数あった背景には、この事業を県3課が横断的に取り組み、園とアドバイザーの間に入って事業を先導した効果が伺える。質の高い幼児教育を目指して、園内研修を実施したい園をサポートするためには、本事業で県行政が果たしたような取組が重要であることが示唆された。

求めと課題に応じた園内研究への関わり

公立幼稚園では、テーマを定め、3年ほどの期間で保育の在り方などを探る“園内研究”を行っています。その園内研究に、幼児教育アドバイザーが関わった事例を紹介します！

研究主題「道徳性・規範意識の芽生えを育む保育の在り方」

福津市立神興幼稚園 園長 藤原 富男 園児数82名

【園からの相談①】

園内研究の効果的な進め方や、研究主題の解釈や捉え方、文言の使い方等についてアドバイスしてほしい。



【アドバイス①】

- ・職員一人一人の研究主題の捉え方を、今の園児の具体的な姿をもとに発言してもらい、職員それぞれの考え方や今後目指す幼児の姿を共有できるようにする。
- ・小中学校における道徳教育の目標や幼児期における道徳教育のポイント、コールバーグの認知発達理論等の資料を職員間で輪読してもらい、解説する。
- ・「道徳性・規範意識の芽生えを育む」ことができている目指す幼児の姿の明確化を提案。

【園での対応】

- ・園で共通理解した研究主題の捉え方を明文化。
- ・関連資料の収集。
- ・研究主題に関わると思われる幼児の姿を抽出、記録。

神興幼稚園は、市内唯一の公立幼稚園です。質の高い幼児教育を行うモデル園として、園内研究・公開保育に取り組む先生方の熱意が伝わってきました。

幼児教育アドバイザー：大嶋 正紹



【園からの相談②】

- ・研究主題を捉える視点についてアドバイスしてほしい。
- ・幼児の姿の記録方法や共有の仕方について教えてほしい。



【アドバイス②】

- ・保育の中で見られた、研究主題に関わる幼児の姿をもとに、視点の精選や類型化を提案。
- ・研究構想図（案）を作成し、目指す幼児の姿の設定と、園の研究主題に沿った内容への見直しを提案。
- ・幼児の姿をまとめる「エピソード記録」の取り方や、それをもとにした「保育カンファレンス」の方法を提案

説明資料のプレゼンや、「エピソード記録」をすぐに作成できるテンプレートを準備し、内容を分かりやすく伝え、すぐに活用できるように心がけました。

提出した資料を専門的に分析してもらい、分かりやすく提示してもらったので、今後の園内研究にとても参考になりました！



幼児教育アドバイザー：吉迫 務



保育所(園)の園内研修の体制づくり～幼児教育アドバイザーの関わり～

「全員そろっての園内研修をするのは難しい…でも、研修をして学びたい」という保育所の課題に応じて、継続的に訪問しながら「**課題別グループで進める園内研修の体制づくり**」に取り組みました。

幼児教育グループ

保育所保育指針の改定により、改めて子どもの発達過程を確認するため、グループ学習をすすめました。併せて、これまでの行事の内容について、子どもの育ちにつながる内容になっているのか、意見交流し保育実践につなげていきました。

乳児保育グループ

乳児クラスは、複数担任制で保育をしています。保育観を合わせ乳児一人一人の発達を保障するために、環境を通した乳児保育について改めて学習し実践を交流していきました。

参加者の感想から

- ・ 小人数なので意見が言いやすく、他の先生の意見もじっくりと聞けるからよかった。
- ・ 他のグループの内容も報告書で知ることができてよかった。
- ・ 日頃の保育を振り返る機会になった。

グループ研修の進め方

- ① ワークショップ形式で、保育の課題をもとに研修グループを決める。
- ② 午睡の時間等を活用して、自主的に学習資料を収集・作成し、グループ研修を進める。
- ③ 「アクティブラーニング」の学習姿勢で主体的に学ぶ。
- ④ グループリーダーを若年の保育士に任せることで人材育成を図る。(主任や管理職に相談できる体制をとる。)

健康・安全管理グループ

生活習慣や食事、安全面等について学習と意見交換を進めました。特に乳児の睡眠時間については、データを取り実態把握に努めました。家庭との連携の大切さを学びました。

子育て支援グループ

保護者との信頼関係について意見交流をしました。家庭生活をイメージし、保護者が抱えるストレスを理解することで、保護者との信頼関係の構築を目指します。懇談会時に事前アンケート等を試みました。

グループ研修の効果

保育士の意識の改善がみられると同時に、研修と実践がつながることで職員一人一人に保育に対する自信が生まれました。若年の保育士も表情や態度が生き生きとして保育に向かう姿勢に変化が見られました。



社会福祉法人 ルーテルこひつじ会 松崎保育園 園長 梶原 潔 園児数80名



きっかけは・・・

昨年度、幼児教育アドバイザー巡回訪問を受け、今まで気付かなかった視点でのアドバイスを受けることができました。

今年度、さらに保育の質の向上及び園全体の向上に努めようと、幼児教育アドバイザーを継続的に迎え研修を深めています。

課題別グループで主体的に取り組む園内研修の歩み

第1回「本年度の年間計画を話し合う。」

- ・ 昨年度の反省をもとに、意見交流。子どもの主体性や保護者への働きかけについて考える。

第2回「笑顔の日」の取組意見交流

- ・ 環境を通して行う保育の年間計画一覧表の作成、全体的な計画として質の向上を図る

第3回「車いす体験について意見交流」

- ・ 日々の保育での意識的な取組について意見交流

第4回「スマイルニュース発行」

- ・ これまでの園便りの見直し。保護者へ伝わる応答的な内容の園便り作成

第5回・第6回「行事の見直し①②」

- ・ 行事の由来について職員学習を深める。また、行事の取り組み方法についてこれまでの内容を整理し再提案する。

第7回「年間計画を次年度の全体的な計画へ」

- ・ 今年度の課題を次年度の全体的な計画へつなぐ



毎月25日は笑顔の日マーク「愛称ニコピー」

参加者の感想から

- 保育園外からの講師は緊張しましたが、新保育所保育指針の内容を踏まえた保育を、例を出して丁寧に説明し、一緒に考えてくださいました。
- 実際の保育の中で、学習した内容と遭遇し、保育の面白さや、やりがいを感じることにつながりました。
- 昨年以上の学びを感じると共に、今後は園内に学びをアプローチし、広めていかなければならないと感じています。



社会福祉法人井筒会 小郡中央保育園 園長 溝田 章子 園児数90名

「自園の保育を振り返ろう」～ECEQの手法を用いた園内研修～

ここでは、私立幼稚園に在籍している「ECEQコーディネーター」の認定を受けた専門スタッフが幼児教育アドバイザーとして巡回訪問を実施した事例を紹介します。

「ECEQ（イーセック）」とは、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が開発した 公開保育による保育の質向上システム（Early Childhood Education Quality System）の略で、このシステムは、外部の視点を導入して研修形式で進められます。

本事業では、ECEQのシステムをそのまま使ってはいませんが、訪問した園の課題に応じて、ECEQの知識や技術、経験を活かして、自園の良さをさらに伸ばし課題を解決するための方策を見つけていけるよう、園内研修でのワークショップや協議のファシリテートを行いました。

ECEQの手法を活用した園内研修は以下のステップで行われます。

Step1: 事前訪問

事前に園を訪問し、管理職・主任からヒアリングをします。それによって、**管理職・現場の教職員とこれから始める研修についての共通理解**を深めます。

Step2: 園内研修

自園の現状と課題の振り返り



園内研修では、職員それぞれの保育に関する思いを、じっくりと伝え合います。そして、**自園の良さを確認するとともに課題の整理**をします。そうすることで、**目標の共有**ができます。

Step3: 公開準備

公開保育のテーマ設定 参観時の視点「問い」の作成

クラス毎に保育のテーマを掲げ、**特に注目して見たい点や意見を求めたい内容を「問い」にして提示**します。参観者はそれに対して感想や助言を付箋に書いて貼り付けていきます。

(例えば…)

- ・ こどもの主体性や対話を大切にされた保育がなされていきましたか？
- ・ 子ども達の学びや育ちの様子はいかがでしたか？気付いた点を教えてください。
- ・ 保育の内容やねらいに対する環境設定は適切だったでしょうか？
- ・ 個人差に配慮した声掛けや援助ができましたか？

Step4: 公開保育

保育参観、「問い」に対するフィードバック 分科会・全体会

参観者の問いに対する感想や助言を受けて

自分だけでなく仲間の保育や思いについても知ることができ参考になりました。



課題が整理でき、今後の実践の視点がはっきりしました。

様々な視点からの意見や温かいアドバイスで、とても励まされました。

Step5: 事後研修

フィードバックの検証、課題の確認、成果の整理

新たな課題に対する具体的な実践について、**すぐに取り組むか時間をかけるか（時間軸）**と、**個人で取り組むか園全体で取り組むか（主体軸）**に整理して発表します。

<事後の感想から>

STEP2～4を通して自園の良さと課題が明確になり、取り組むべき視点が具体的になりました。

教職員の意欲を高め、園が一体となって組織的に取組を進める有意義な機会となりました。



「つなげよう 小学校へ」 幼小連携・接続の体制づくりその一步！

那珂川市立岩戸幼稚園 園長 鳥飼 尚枝 年中児17名 年長児19名

連携校 那珂川市立岩戸小学校 校長 福島 隆幸 児童数 242名

市としては…

那珂川市は、
保・幼・小連絡会があり、
管理者や教員レベルの生活
規律や諸課題の取組への情
報交換等が充実

園の願い

子どもたちの育ちや学びをつなぐ
幼小接続を進めたい

幼児教育
アドバイザーに
相談しよう

岩戸幼稚園・小学校では…

もっと、**実際の子どもの
活動を通して、幼小で共通
理解を深めたい！**

**幼小をスムーズにつなぐ
接続・連携は、どう進めれ
ばいいのか知りたい！**

幼稚園と学校がしっかりした運営組織をつくって交流することが大切です。

<連携を効果的に進める体制づくり、これだけは！>

- 連携の組織づくりは、管理職・コーディネーター（主幹教諭・主任教諭）を中心に
- 交流する活動内容や題材を配列した実践をしながら年間計画を作成
- 幼小共通（又は相互に工夫して）の活動計画案（指導案）を作成
- 幼小の担任・担当で援助・指導の役割を分担して保育、授業交流の実践
- 実践後は幼小合同で反省会（成果と課題を検討して次の交流の改善に繋げていきます）



連携による交流活動の実際

1 年間計画の確認と内容検討

幼小相互のコーディネーターと担任で検討
交流の日程、内容等を確認・検討しました。

ポイント1

打合せは、
無理なく・効率よ
く・簡潔に

2 交流の事前打合せ

主任教諭（幼）と主幹教諭（小）で打合せ
交流の時間調整、参加体制、準備の検討・確認 等
担任と担当者同士で打合せ
交流のねらい、内容、活動過程の確認 → **共通の活動計画案**を作成



ポイント2

保育・指導法を相互
に理解できるように

3 交流活動

幼小の担任・担当者が役割分担・協力して実践

幼児と児童の交流

（交流事例）

「凧を上げて遊ぼう」「秋と遊ぼう」（生活科との関連題材）

「園庭・校庭で一緒に遊ぼう」 など

- ・ 交流は単発的なものではなく、年間を通して活動内容や題材につながりを持たせました。
- ・ 幼小の多くの教師が活動にかかわることで相互の子どもの発達や指導の特性を理解し合うことができました。



ポイント3

幼児が小学校への
親しみ・期待を
もつような活動に



4 事後の反省

その日のうちに、幼小合同で反省
会をもち、反省、評価し、今後の改
善につないでいきました。

教職員が代わっても続いていく
「**連携・接続のシステム**」の
構築が大切です。そのために、
アドバイザーは、積極的に双方
の管理職に働きかけるコーディネ
ーターをしました。

幼小連携・接続推進の成果

（幼児）小学生への憧れ意識を強め、遊びや活動の姿に自主・自立の高まりが見られてきました。

（教師）小学校教育への理解が深まり、接続を意識した保育指導を心がけるように変わってきました。

どう進める！？ 保幼小接続推進体制づくり

福津市 「保幼小接続推進協議会」の創設 ～まずは集まる環境づくりから～



**幼児教育
アドバイザーの
関わり**



園児は複数の小学校に進学するので、各校（園）の先生方が一斉に集まる会議は大変有意義でした！



幼児教育アドバイザーが市の**保幼小接続推進協議会の創設を提言**することで、市内の保育所・幼稚園・認定こども園・小学校の園長先生・校長先生が一堂に会する連絡会が開催されました。

また、接続を推進する部会として、「運営部会」・「合同研修企画部会」・「接続カリキュラム作成部会」を立ち上げ、これまで各園（校）単位で行っていた接続を、市全体の取組として進めています。

顔が見える関係を築いたことで、幼児教育アドバイザーの巡回訪問も継続的に行えるようになり、巡回訪問での助言をもとに各部会の取組も深まるといふ好循環が生まれました。

【アドバイザーの対応内容】

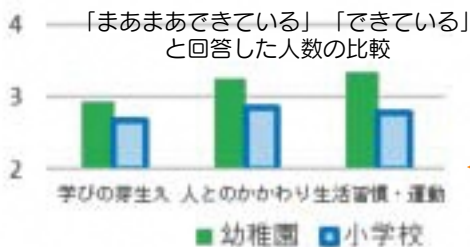
各園・学校・市役所担当課の連絡調整、会議の計画と進行及びファシリテーション、市内共通の指導要録の作成、各種資料作成、保育園長会・小学校校長会での助言（地区保育協会・小学校長会合同研修会）など。

小郡市 「保育所・幼稚園・小学校の接続期カリキュラム検討委員会」の設置 教務課と子育て支援課、保育所幼稚園課の連携 ～子どもの育ちを中心に～



取組のきっかけは・・・
「できている」の評価が、幼稚園教諭と小学校教諭とでは違いが！
1年生になった子どもは、戸惑わない！？

公立幼稚園教諭、1年生担任へのアンケート結果



**もっと
育ちや学びの
接続を
スムーズに**

今後の展望

- ★ アプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムの研究及び実践
- ★ 幼稚園教育要領、保育所保育指針を踏まえた学校教育課程の編成・実施・評価につなげる

保・幼・小の接続期カリキュラム検討委員会

連携した取り組み ～育ちや学びの接続～



- ★ アプローチカリキュラム（保育所、私立幼稚園、公立幼稚園）とスタートカリキュラム（小学校）の接続について実践発表
- ★ 育てたい資質・能力3つの柱をもとに、保育所、幼稚園、小学校での課題や改善策をグループ討議

参加者の感想から

つながりを具体的に話し合えてよかった。

保・小で大切にしていきたいことが確認できた。

保育参観、学級参観の相互参観を会の一貫として今後設定してみたい。

保護者や地域社会と連携し、子どもの豊かな育ちの保障へ